

何でも読もう会

書物名	『焼跡のイエス』 石川淳	開催 日時	2023.5.1	推薦	首藤
巻・章	全編			出席者	8名
<p>石川淳はほとんどのメンバーが初めて。彼の文体に魅せられて何となく推薦したが奥深い内容に驚いた。事前研究して臨んだメンバーが何人もいて議論が大いに深まった。</p> <p>昭和21年夏の上野。焼跡に自然発生した汚い飲食街と近くの公園が舞台。腹をすかせた汚い群衆の中に突如現れる少年。この子の汚らしさといったら・・・その子が本能の赴くままに飲食店で一騒動をやらす。ここまでが前半部で、十分読み応えありとの意見だった。ところが後半になると語り手＝わたしが物語に登場、少年とわたしの絡み合いになり、遂に「わたし」はこの子をイエスと見なし物語は思わぬ展開を遂げる。</p> <p>後半部の解釈をめぐってさまざまの意見が出された。浮浪児とイエスの存在をどう考えるのか、神州日本が米国占領下＝キリスト教の下にあることの影響は、など出口の見つからない議論が続いた。</p> <p>よくは分らないが石川淳は凄い作家のようだ、の声があいついだ。</p>					